

杉山氏はIT企業を経て、夫の転勤に伴い海外へ。マレーシアでマーケティングを学び、転居したシンガポールでは個人向け金融資産運用会社に勤務した(図表参照)。

事業を営んでいた実家で相続が発生し、日本に一時帰国していたあるとき、証券会社で目にした光景に驚いた。

「窓口でお年寄りにブラジルリアル債ばかり勧めていたのです。明らかに私がシンガポールで触れてきた個人の投資のスタイルとは違う姿でした。本当にその方に合った金融商品なのか、第三者の意見を確認する機会もないのかと疑問に思いました」。そして知ったのがFP資格だった。「相続や事業承継に直面したこともあり、FPの勉強はとにかく実務的で役に立った」と振り返る。

FP事業を始める際には、ブランディングの専門家にコンサルティングも受けた。

「『貯める』『稼ぐ』『ふやす』という3つの軸でお客様のお金のスタイリングをしていきたい」という思いをまとめ、マネー・スタイリストという会社名を付けてもらった。

ブランディングは常に意識し、住宅地としてイメージのよい千代田区二番町のレンタルオフィスを事務所にした。プロフィール写真、会社のロゴマークなどにもこだわった。

「開業当初はとにかく来た仕事は全部やります、というスタンスでしたが、相談をメインにしたいので、今はそれにつながる仕事だけ受けることにしています」

主に専門家のポータルサイトや「CFP®認定者検索システム※」を経由して相談依頼が来るが、iDeCo(個人型確定拠出年金)開始の影響からか、2017年の年明けから急に相談件数が増えたそうだ。自分自身が納得できるアドバイスをするためには、常時30人ぐらいの顧客、新規は月に3人が適切だと考えている。「健康診断のように、1年に1回は相談に行こうという感覚になってもらえればいいです。お金は自分の人生を楽しくしてくれるものだと思います。そういう使い方や貯め方をお客様に広げていきたいですね」

図表 ■ 杉山夏子氏のキャリア

1998年	大学卒業、IT企業に就職
2002年	結婚
2005年	退職して専業主婦に。夫の海外転勤で海外へ
2007年	マレーシアからシンガポールに転居。日系の運用会社に就職
2011年	帰国
2013年	2月 AFP資格認定 8月 独立(個人事務所)
2016年	2月 CFP®資格認定 7月 法人化



セルフブランディングを意識し、プロフィールのほか、ロゴも最近一新した

※協会のCFP®認定者検索システム

協会ホームページの生活者向けコンテンツ。CFP®認定者であればMyページから情報を登録でき、利用者は条件を指定してCFP®認定者を探すことができる



パラレルキャリアで 経験を積み、段階的に 軸足をFP業務に移す

さいとう たけし
齋藤岳志氏

CFP®認定者

FPオフィスセラセラ横浜
(2013年副業でFP業務開始、
2017年完全に独立)



2014年11月号
「活かしています! FP資格」

齋藤岳志氏が「活かしています! FP資格」に登場したのはおよそ3年前。当時は経営コンサルティング会社に勤務し、会社の了解を得て副業として個人でFPおよび社会保険労務士の事務所を開業、横浜の中心部にあるレンタルオフィスを使用しながら土日に相談業務に当たっていた。

その後の大きな変化は2016年に会社を退職し、個人事業主として独立したこと(図表1参照)。経営コンサルタントの記帳代行は業務委託として受け、引き続き出社して従事していたが、自分の時間は大幅に増えた。さらに単行本の出版が決まり、2017年8月からは執筆に集中するため、完全にフリースタイルでの仕事に切り替えた。現在は図表2のとおり、午前を記帳代行、午後をFP業務に充てている。

「記帳代行の経営コンサルタントの仕事も好きですし、取引先からも継続して仕事を請け負いたかった。FPの仕事も好きなので両方やりたいと思って並行してきました。自分がやりたいことをやり、会いたい人に会うことを続けてきて、少しずつ人脈やつながりが生まれ、今のかたちに行き着いたように感じます」

FPの活動を中心にしたとはいえ、会社員の頃から始めた不動産賃貸経営の収入が全体の約6割、コンサルタントが3割、FP業はまだ1割というのが現実。不動産賃貸経営はこれまで順調で、今では10室のマンションを保有する。賃貸経営のカギとなる物件選びにはCFP®資格の知識はもちろん、税理士事務所や経営コンサルティング会社で培った決算書などの数字を見る力が役立っているとか。出版される本もサラリーマン大家だった経験を基に、FPとコンサルタントの視点から不動産賃貸経営を解説するものだ。

齋藤氏は今年40歳。節目の歳に新たな挑戦が始まる。